

2023年12月13日（水）

第7回東京大学学術資産アーカイブ化推進室主催セミナー
デジタルアーカイブズ構築事業の成果紹介とこれからの活用を考える

ライトニングトーク

lightning talk

総合図書館の資料デジタル化状況

総合図書館情報サービス課資料整備チーム

中村 美里

1. 総合図書館の資料デジタル化

●デジタル化の対象資料をどう選ぶ？

- 貴重図書に指定されている資料を文庫単位で実施＋和書を優先
 - 「南葵文庫」「鷗外文庫」「青洲文庫」など
- 利用頻度の高い資料、時宜にかなった資料、現物資料の取扱いが難しい資料（卷子本や大型資料等）などをピックアップ
 - コロナ禍での「疱瘡絵」、展示会にあわせた「鷗外文庫」など
 - 来年度は『源氏物語』？

●デジタル化費用はアーカイブズ事業予算だけ？

- 国文学研究資料館が推進する「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」に参画し、毎年まとまった数量の古典籍をデジタル化
 - 「国書データベース」で利用可能＋東大アーカイブズポータルでも利用できます
- その他（件数は多くありませんが）、科研費調査の一環で撮影された画像、利用者からの全ページ複写依頼によって作成された画像などで、公開可能なものも随時公開中

2. アーカイブズ事業における総合図書館のデジタル化実績（2020～2023年度）

2020年度

- 南葵文庫（貴重図書）
- 鶚軒文庫（一般和古書）
- サンスクリット写本（貴重図書）
- その他（利用頻度の高い資料等）

2021年度

- 南葵文庫（貴重図書）
- サンスクリット写本（貴重図書）
- その他：利用頻度の高い和漢古書等

2022年度

- 南葵文庫（貴重図書）
- 鷗外文庫（貴重図書）
- 田中芳男文庫（貴重図書）
- 鶚軒文庫（貴重図書）
- 青洲文庫（貴重図書）
- 連歌俳諧書集成（貴重図書）
- 館史資料コレクション
- サンスクリット写本（貴重図書）
- その他（利用頻度の高い資料等）

2023年度

- 青洲文庫（貴重図書）
- 館史資料コレクション
- その他：利用頻度の高い和漢古書等

* 2019年度以前の実績は、第3回セミナー資料をご覧ください。

<http://hdl.handle.net/2261/00078916>

* サンスクリット写本のデジタル化を申請・実施したのは
人文社会系研究科（総合図書館は所蔵館として撮影に協力）

3. 特色ある資料の紹介 (1)

鷗外文庫 *Noticen, 1884-86* ほか 【2022年度】

- 鷗外文庫資料は、2006 (H19) 年から「鷗外文庫書入本画像データベース」で画像を公開してきた
- 2022 (R04) 年は、森鷗外生誕160年・歿後100年のメモリアルイヤー
- 2022年秋頃に森鷗外（鷗外文庫）の特別展示会を開催することが企画される
- 展示会を見据え、2022年度前半の撮影で鷗外文庫資料数点をデジタル化



- 展示会図録での画像掲載
- 電子展示サイトの構築
- 2022年10月13日(木)～11月28日(月) 「テエベス百門の断面図 歿後100年記念 森鷗外旧蔵書展」を開催

電子展示サイトは、ジャパンサーチの
「ギャラリー」機能を活用し構築

<https://jpsearch.go.jp/gallery/utokyo-ogai2022>



3. 特色ある資料の紹介 (2)

ゲーテ自署付書簡 【2022年度】

- ゲーテ (Johann Wolfgang von Goethe, 1749-1832) の自筆サインが入った書簡
- 本学総合文化研究科の石原あえか教授 (専門: ゲーテと近代自然科学等) がこの資料に強い関心を示され、丹念な調査を実施 → 成果を論文で発表
- 同時進行でデジタル化を行い画像公開の準備を進める

●画像公開サイト

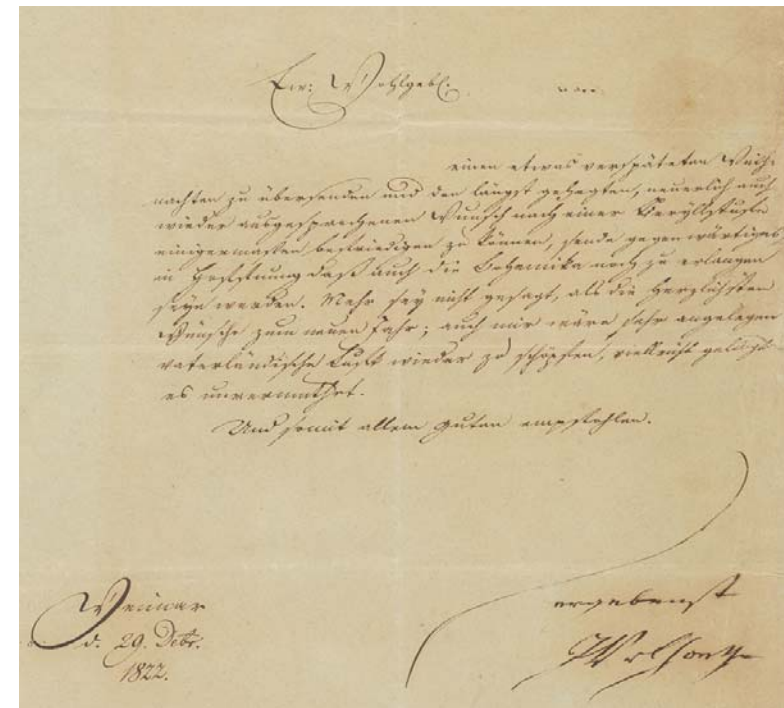
ゲーテ自署付書簡 [Letter] Weimar, 29. Dcbr. 1822 [to L. W. Cramer]
(WA IV-36, S. 249対応) Der Brief von Goethe an Ludwig Wilhelm Cramer vom 29. Dezember 1822 im Besitz der Universitätsbibliothek Tokio

<https://iif.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/repo/s/goethe/>

●論文 (東京大学機関リポジトリで公開)

石原あえか「日本に現存するゲーテ書簡 調査報告と再発見」
(『ヨーロッパ研究』第22号 (2023年1月))

<https://doi.org/10.15083/0002006008>



3. 特色ある資料の紹介 (2)

ゲーテ自署付書簡 【2022年度】

- この書簡は長らく「所在不明」とされてきた
- ただし書簡の存在自体は知られており、書簡の下書き草案を底本として『ゲーテ全集』に収録されている
- 『ゲーテ全集』と書簡原本を比較すると、記述内容に若干の差異があることが判明
- 石原教授から、画像だけではなく書簡原本の翻刻テキストも公開し、かつ『ゲーテ全集』との違いが分かるかたちで公開できれば、ゲーテ研究者にとって非常に有益 との助言を受ける
- 人文学資料におけるテキストデータの記述方法といえば、最近よく耳にする・・・



TEI : Text Encoding Initiativeに準拠した記述でテキスト公開

最近流行のTEIといふものを、私もしてみむとてするなり。

- 書簡原本の翻刻テキスト作成：石原教授
- 翻刻テキストのTEIエンコーディング：図書館職員（アーカイブ化推進室員）
- システム構築：中村覚助教（史料編纂所兼アーカイブ化推進室員）

3. 特色ある資料の紹介 (2)

ゲーテ自署付書簡 【2022年度】

翻刻テキストデータ公開サイト <https://utda.github.io/goethe/>



ゲーテ自署付書簡テキストデータ (TEI準拠)

書誌情報

東京大学総合図書館所蔵のゲーテ自署付書簡

タイトル

日本語 東京大学総合図書館所蔵のゲーテ自署付書簡
[Letter] Weimar, 29. Dcbr. 1822 [to L. W. Cramer]
(WA IV-36, S. 249対応)

ドイツ語 Der Brief von Goethe an Ludwig Wilhelm Cramer vom 29. Dezember 1822 im Besitz der Universitätsbibliothek Tokio

著者

ドイツ語 Johann Wolfgang von Goethe VIAF

日本語 ヨーハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテ

共著及び清書

ドイツ語 Johann August Friedrich John
日本語 ヨーン

文献記号について

書誌などの基本情報

翻刻テキストデータ

画像

3. 特色ある資料の紹介 (2)

ゲーテ自署付書簡 【2022年度】

The screenshot displays a digital archive interface for Goethe's letters. The left sidebar contains metadata in Japanese and German. The main text area shows a letter snippet with orange highlights on 'Wohlgeliebte', 'gegenwärtigen', 'Bohemika', '1. 29. Decbr.', 'ergerbenst', and 'JW v Goethe'. A red arrow points from the 'Bohemika' highlight to a pop-up menu. The menu has two columns: '文献' (Literature) and '表記' (Notation). The first row shows 'UTL' and 'Bohemika'. The second row shows 'WA' and 'Bohemica'.

差異のある部分を色付けし、そこをクリックすると
違いが分かる表示にしている
(UTLは書簡原本、WAはゲーテ全集のこと)

3. 特色ある資料の紹介（応用編）

第一高等学校旧蔵資料（駒場図書館所蔵）

Von West nach Ost 所収・森鷗外「演劇問題に就いて」のテキストデータ公開 2023年12月4日

The screenshot displays a digital library interface for the document 'Über die Theaterfrage'. The interface is divided into three main sections: '書誌情報' (Bibliographic Information), '本文' (Text), and '画像' (Image).

- 書誌情報 (Bibliographic Information):**
 - タイトル (Title):** Japanese: 演劇問題に就いて; German: Über die Theaterfrage
 - 著者 (Author):** Japanese: 森林太郎 VIAF
 - 所蔵機関 (Institution):** 東京大学総合文化研究科・教養学部 目黒区駒場3-8-1 東京都 日本
 - 請求記号 (Call Number):** IV:C:397
 - サイズ (Size):** 1 v. 27 cm
- 本文 (Text):** The main text is the German title 'Über die Theaterfrage' followed by a paragraph starting with 'Seit Voltaire's *l'Orphelin de la Chine* auf die französische Bühne gebracht worden ist, gaben sich Davis, Pauthier, Bazin und Stanislaus Julien u. A. die Mühe, die chinesische Dramen dem europäischen Publicum bekannt zu machen. Auch in Deutschland hat Karl Rosenkranz schon im Jahre 1866 einen höchst interessanten Vortrag über denselben Gegenstand in einem zwar kleineren Kreise gehalten, welchen er jedoch später in seinen „Neuen Studien“ (Leipzig, 1875) abdrucken ließ. Es dürfte wohl diesen Thatsachen gegenüber manchen japanischen Lesern dieser Zeitschrift etwas befremdend erscheinen, daß unter den litterarischen Erzeugnissen der Chinesen die Dramen es sind, die in Europa früher bekannt geworden als hier, wo doch das chinesische Element auf allen Gebieten des Volkslebens vertreten ist und wo man dem Theater zu jeder Zeit ein so reges Interesse entgegenzubringen pflegte. Woher denn diese auffallende Vernachlässigung gerade dieses Literaturzweiges? Die Antwort auf diese Frage liegt jetzt wohl jedem Denkenden nahe, der die tiefe Kluft zwischen der früheren gebildeten Welt und dem eigentlichen Volke empfinden gelernt hat, und dem es eine unerläßliche Aufgabe zu sein scheint, dieselbe mit allen Kräften auszufüllen. Was war denn das
- 画像 (Image):** A photograph of an open book showing the scanned text page, with a color calibration strip on the right side.



森鷗外が書いた論文「Über die Theaterfrage（演劇問題に就いて）」の翻刻テキストデータの提供が石原あえか先生からあり、同様にTEIに準拠したかたちでテキストデータを公開。

<https://utda.github.io/ogai/text/theater>

4. 活用されるコンテンツを目指して。。。

一担当者の
つぶやき

- 総合図書館が公開する画像データとそれに関連するメタデータの利用条件
- 「東京大学総合図書館所蔵」の明示（改変した場合はその旨も明示）だけを条件に
 - 利用目的 → 特に問いません。営利目的でもOKです。
 - 事前申請 → 不要です。
 - 利用報告、成果物の送付 → 報告してもらえたら嬉しい（任意）

総合図書館 特別利用申請受付数

年度	出陳 (現物資料の貸出)	出版物やウェブへの掲載、 パネル展示、翻刻など	総計
2015	8	131	139
2016	14	121	135
2017	4	112	116
2018	4	76	80
2019	4	75	79
2020	3	51	54
2021	6	49	55
2022	9	53	62

2018年
6月から
オープン化！



4. 活用されるコンテンツを目指して

- 電子展示構築のため、ジャパンサーチの「ギャラリー」を使ってみて・・・

検索条件の設定

使用するテーマ別検索 **検索条件の設定** その他の設定

検索キーワードを入力

利用条件 ▲ コンテンツ ▲ 種類 ▼ データベース ▼ 分野 ▼ 時間/時代 ▼ 場所 ▼ 人物/団体 ▼ 画像検索 ▼ +

教育利用	非商用利用	商用利用	CC0	PDM	CC BY (表示)	CC BY-SA (表示-継承)	CC BY-ND (表示-改変禁止)	CC BY-NC (表示-非営利)	×
195万	161万	153万	1.77万	83.4万	33.5万	34.2万	7650	1.35万	
CC BY-NC-SA (表示-非営利-継承)			CC BY-NC-ND (表示-非営利-改変禁止)		著作権あり	著作権あり-教育目的の利用可	著作権なし-契約による制限あり		
7.38万			5.52万		357万	33.5万	47.1万		
著作権なし-他の法的制限あり		著作権未評価	著作権未決定-裁定制度利用著作物		該当なし				
1564		71.2万	5.69万		826万				

隠す 除外条件を指定

ウェブ公開	限定公開	サムネイル有	IIIF対応	画像	動画	文書	表形式	音声	3D	PDF	×
509万	308万	477万	138万	457万	2.99万	30.8万	-	5.31万	107	5.63万	

検索オプションを閉じる

29,061,484件見つかりました。

1 / 1,453,075 ページ < > 20件 ▼ 適合度順 ▼ 表示スタイル 品 呂 田

まず利用条件や公開条件で絞り、使いやすいコンテンツを探してしまう

- ・利用申請が必要
- ・学術、教育目的に限定
- ・条件が不明瞭

↓
やはり利用を躊躇してしまう

使い勝手がいいものを使ってしまふことを、身をもって実感

4. 活用されるコンテンツを目指して

- 様々な資料で、当館の公開画像が利用されています（定期的に報告があったり、成果物を頂戴しています。）
- オープンデータにしてから（今のところ）トラブルはありません！
- もちろん全ての画像を公開できるわけではなく、著作権保護期間が曖昧だったり、個人情報を含むもの、センシティブな内容を含むものなどはデジタル化の可否も含め適切に扱うべき。
- ただ、公開して問題ない画像に対して「なんとなく制限をかけたいかも？」
「ちょっと不安かも？」ならば、利用条件の緩和を考えてみませんか？



不安感のお化けを恐れるのは、
ちょっと勿体ない

4. 活用されるコンテンツを目指して

オープンデータ化を考えるとときに思い出す言葉といえば・・・



デジタルデータ かわいい子には旅をさせよ

— デジタルアーカイブとオープンデータ —

第2回東京大学学術資産アーカイブ化推進室主催セミナー

図書館等で所蔵資料をデジタル化し公開することはもはや珍しいことではなく、昨今はそれらをオープンデータとして公開するケースが増えつつあります。一方でデータの公開にあたっては、「データが悪用されないだろうか?」「公開しても誰が利用するの?」というような、漠然とはいえデジタルゆえの不安や懸念を抱いてしまいがちです。

しかし今は研究活動の広がりにより、世界中から思いもかけないかたちで資料やデータが利用されます。その流れを促進し、また資料の発見可能性を高める一助としても、オープンデータとして公開することは大切なことと言えるでしょう。

大事な資料のデジタルデータだからこそ、積極的に外へ出して様々な“出会い”を作りだしていこう。そんなことを考えるきっかけになるセミナーです。是非ご参加ください。

Bon voyage! 

デジタルデータ かわいい子には旅をさせよ

— デジタルアーカイブとオープンデータ —

2018
11/22 (木) 13:30→17:00 東京大学 福武ホール [地下2階]
(受付13:00～) ラーニング・シアター

【講演】

オープンサイエンスとオープンデータ
武田 英明 (国立情報学研究所 教授)

デジタル・アーカイブのライセンス:
クリエイティブ・コモンズ・ライセンスの意義と拡大適用問題
渡辺 智暁 (慶應義塾大学 特任准教授,
クリエイティブ・コモンズ・ジャパン理事長)

歴史研究におけるデータ活用事例
福田 真人 (東京大学大学院人文社会系研究科 博士課程,
Tokyo Digital Historyメンバー)
山崎 翔平 (東京大学大学院経済学研究所 博士課程,
Tokyo Digital Historyメンバー)

【パネルディスカッション】

パネリスト: 各講演者、永崎 研宣 (一般財団法人 人文情報学研究所)
モデレータ: 中村 覚
(東京大学情報基盤センター助教、学術資産アーカイブ化推進室)

案内
<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/contents/event/20181012>

対象: 本テーマに関心のある方
※学内者、学外者を問いません (定員 120名)

以下のサイトから事前にお申し込みください
<https://webform.adm.u-tokyo.ac.jp/Forms/digav2018/>

お問い合わせ:
東京大学学術資産アーカイブ化推進室
(附属図書館総務課)
digital-archive@lib.u-tokyo.ac.jp
03-5841-2613

※障害等のため、会場設備等に配慮が必要な



TAKEDA Hideaki



WATANABE Tomoaki



FUKUDA Masato



YAMASAKI Shohet



NAGASAKI Kiyonori



NAKAMURA Susumu

第2回東京大学学術資産アーカイブ化推進室主催セミナー (2018年度)
かわいい子には旅をさせよ
— デジタルアーカイブとオープンデータ —



https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/contents/archives-top/seminar#ap_2

デジタルコンテンツを囲い込むより、「行ってらっしゃい！」と外に出すことで、大きく育って帰ってくるかもしれない?!
→デジタル化の進展で、自分で考えるより利活用のケースは大きく広がっている (はず) !

4. 活用されるコンテンツを目指して

とはいえ、、、

- 実際に利用されているかどうかは気になる
- 今後のデジタル化資料を検討する際の参考にしたい
- 使い勝手が悪いところがあれば聞きたい
- (単純に)「ありがとう」は嬉しい

HOME 検索 資料一覧 資料の解説 利用条件 利用報告 ヘルプ 東京大学附属図書館コレクション

東京大学総合図書館所蔵
南葵文庫

デジタルコンテンツ利用報告フォーム / Form for Use of Digital Contents

ビュー テスト 結果 Build 設定

スタート プレビュー 完了

当館の公開データを活用いただき、ありがとうございます。今後の参考にしますので、ぜひ活用事例をお知らせください。
Thank you for visiting our website. Please let us know how you are using our digital contents.

必須 1. 使用した資料についてご記入ください / Please describe the digital contents you used

行のウェイトを表示する

作品名, コレクション(文庫)名 / title	利活用の詳細 / content	成果公開サイト / URL
必須 <input type="text"/> <small>(作品名と公開サイトのURLだけでも結構です)</small>	必須 <input type="radio"/> 論文, レポート <input type="radio"/> 図書 <input type="radio"/> 授業, 学習用教材 <input type="radio"/> 新聞, 放送・映像制作 <input type="radio"/> 広報用資料, グッズ <input type="radio"/> ウェブサイト, SNS <input type="radio"/> その他 ...	<input type="text"/> <small>(活用事例紹介サイトがあればURLをご記入ください)</small>

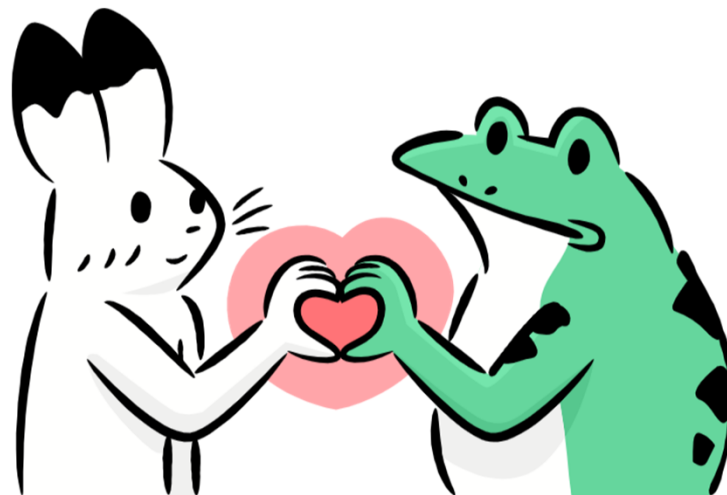
各公開コレクションには「デジタルコンテンツ利用報告フォーム」を設置しています。

「作品名」と「利活用の詳細（選択式）」と「活用例の紹介可否」だけが必須項目。氏名や連絡先の記入は任意です！

担当者の励みになりますので、利用の際は気軽に投稿してください。

ほめれば伸びるタイプ





デジタルアーカイブを
使う人にも作る人にも良い循環を